

る。

明治14年5月、8年ぶりにノースハンプトンに戻り、同国人・アメリカ人につき、「押し強くエネルギーで、激しく利己的なサクソン民族は、日本人の様な従順、思いやりあり、献身的で親しみやすい人々と比べ、優しさと感じの良さが劣っている¹⁾」と述べている。その時、ライマンは目の前に炎を見、かけつける人々の足音を聞き、6月8日の大火を思いだし、江戸の人々の人情の美しさを再認識したのではなかろうか？。

- 1) Fujita Fumiko "Boys, be ambitious!": American pioneers on the Japanese frontier, 1871-1882, University Microfilms International, 1988, p.223.

FUKUMI Yasuko (1990): A note on Lyman (4).

<受付: 1990年6月18日>

新刊紹介

「地球環境の変化に関わる堆積学的諸問題」

堆積学研究会では、昨年11月に行われたシンポジウムをもとに、会報32号特集「地球環境の変化に関わる堆積学的諸問題」を4月に刊行致しました。掲載される論文は、●隠岐海嶺堆積物に見られる明・暗リズム(松本良ほか) ●古生態と古環境解析—要旨—(鎮西清高) ●非定常的堆積現象研究の意義と方法(志岐常正) ●女川層にみられる堆積リズムと環境変動(多田隆治) ●化学組成から見た層状チャートの堆積メカニズムと周期性(渡部芳夫) ●湖沼堆積物の粒度組成の変動と過去の侵食環境(柏谷健二) ●琵琶湖における乱堆積現象と古環境変遷(公文富士夫ほか) ●汽水湖沼の湖底堆積物に記録された完新世の環境変化(鹿島 薫) ●縞状堆積物のフラクタル解析(川上紳一ほか) ●¹⁴C年代測定と環境変化解明の諸問題(中村俊夫ほか) ●日本の中生代以降の地層に認められる海進・海退現象(伊藤 慎ほか) ●白亜紀セノマニアン〜チューロニアンの海水準変動(安藤寿男) ●九州中軸帯白亜系の堆積過程ならびに堆積・造構造環境(坂井

卓ほか) ●前弧深海成砕屑物の堆積パターンとその制御機構(草場 敬ほか) ●臨海扇状地の海水準規制(武藤鉄司) ●西太平洋で見られた炭酸塩補償深海域の変動(山本 聡) ●中部太平洋海底堆積物中の金属元素の分布(三田直樹ほか) ●堆積物における H₂S の挙動(鈴木德行) ●日本海溝セジメント・トラップ中の微細鉱物と堆積環境(青木三郎ほか) ●西南日本太平洋側の陸棚～斜面域の表層堆積物(池原 研) ●鮮新世後期の扇状地—網状河川堆積相: 本州西端部の土井ヶ浜層(水野篤行ほか) ●潮下帯堆積物の特徴とその識別法(牧野泰彦) ●古東京湾の沿岸砂州堆積物から推定した古水深と離岸距離(岡崎浩子ほか) の23論文です。B5版2段組140頁で、非会員価格は3,000円です。希望者は下記宛てお申込み下さい。

〒812 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学理学部地球惑星科学教室内 堆積学研究会事務局 坂井 卓宛 Tel. 092-641-1101 (内線4304), Fax 092-632-2736, 631-4233 堆積学研究会事務局(坂井 卓)